

平成29年度第1回御嵩町総合教育会議 要旨

日時 平成29年6月1日 午前11時から

場所 役場第1委員会室

出席者

町長部局 : 渡邊町長、寺本副町長、伊左次総務部長、須田総務防災課長、日比野行政管財係長

教育委員会部局 : 高木教育長、渡邊教育委員、細野教育委員、平井教育委員、田中教育委員、山田教育参事、海津指導主事、石原生涯学習課長、井澤学校教育係長、日比野外国語教育指導員

山田参事 定刻となりましたので、只今より平成29年度第1回御嵩町総合教育会議を開催いたします。はじめに、御嵩町長より挨拶申し上げます。

渡邊町長 日頃は、町の教育行政にご理解ご協力を頂きありがとうございます。近頃、文科省の問題がマスコミ等で話題となっていますが、話題に上がる官僚の名前には知っている方もおり、国と御嵩町のつながりは近年、強くなっているようにも感じています。それはさておき、教育については、方針のすべてを中央で決めていくわけではなく、何を選択し、どのように推進していくかを地方で考えていくことが重要です。御嵩町の教育どのようにしていくか、本日も中身の濃い議論を進めていただきたいと思います。

山田参事 では、次第に沿って進めさせていただきます。また、御嵩町総合教育会議設置要綱に従い、以後の会議の進行は町長による進行とさせていただきますのでよろしくお願いします。

渡邊町長 それでは、要綱に基づき、議長として進行させていただきますのでよろしくお願いします。では、次第の2番目、「外国語教育推進事業について」事務局より説明してください。

日比野外国語指導員 昨年度より外国語教育には力を入れており、町内の外国語教育の活性化を進めております。学校教育関係と生涯学習関係に大きく分けて説明します。学校教育関係についてはALTが2名体制となり、学校への訪問回数が2倍となっており、生徒が英語教育を受ける機会が増えています。また、英語検定の受験について町より費用の助成を受けており昨年度は82人が補助を受けました。その結果英語検定の資格保持者が一昨年度末と昨年度末を比較するとほぼ倍増していることから、大きな成果が上

っていると考えています。3点目に東濃高校で英語が堪能な外国人生徒との交流を図り、授業への活用を考えているところですが高校側、小中学校側の双方とも基本的には賛成なのですが、具体的な詰め段階で、各学校の都合によりすり合わせが難航し、実施に至っていません。現在実施に向けて調整を行っています。4点目は小学校の英語サマーワークショップですが、昨年実施し大変高評価いただいた案件ですので、今年度も引き続き実施する予定です。

生涯学習関係については、昨年度、成人講座を3回実施しましたが、好評であったので今年度は4回に増やして実施する予定です。また、乳幼児学級での講座は昨年度1回伏見で行いましたが、今年度は上之郷、御嵩、伏見の3回行う予定です。

渡邊町長 それでは、質問等があれば発言してください。

細野教育委員 日本中で子供の頃からの英語教育が始まっており、御嵩町でもいろいろ取り組んでいますが、御嵩町の児童の授業への姿勢はどのような感じですか。また、この事業の目指す姿はどのようなものか。児童の学齢に対して適当な検定の級はどの程度なのか。最後に教師の側の指導能力はどうですか。

日比野外国語指導員 児童は意欲的に授業に取り組んでいます。年齢が上がるにつれて多少引き気味になるようにも感じられますが、良好な状況といえます。この事業の目的は英語教育の素地を養うことで子供たちが英語を勉強したいと思うようにすることです。ただし、次の指導要領では5, 6年生は「教科」となります。そうなりますと、ある程度の学力をつけなければならなくなりますので、多少意味合いが違ってきます。年齢に対する級は国の指針では3級が中学卒業程度とされていますので、3級を持つ子が多くなればよいところですが、正直難しい状況です。

指導する教師は困惑しているものが多いようですが、ALT が来てくれることに大変助かっているようです。

渡邊教育委員 東濃高校生との交流については2時限分の枠を取っていくとのことですが、それ以外でも柔軟に対応することですので、小学校の休み時間を利用するなどの対応もできればよいのではないのでしょうか。

高木教育長 校長レベルではすぐに取り掛かりたいとの意向を持っているようですが、教務主任レベルになるといろいろ問題が出てきているようです。基本は国際学級の20人を連れて小学校に行き「基本単位」として認めたいと思っていますが、それは少し難しい状況です。今後は、高校から2名を連れてALTと共に活動させる予定です。その際は5, 6時間目を公欠扱いとす

ることを考えています。また、2学期からは体育館などで20人の高校生との交流することを目指しています。

休み時間を利用しての活動は、小学校の安全面の問題や高校生の負担感を考えると、少々実現は難しいと考えます。

細野教育委員 協力いただける高校生の生徒には何かしらの経済的な支援ということとは考えられるのでしょうか。

渡邊町長 公欠なり単位なりの手当てについては、きちんと考える必要があります。また、夏休みなどに英語を勉強したい子に対する家庭教師のような支援については時間給なども考えられると思います。日常的には難しいところもありますが、町が受け皿となっていくことへの可能性はあると思いますし、前向きに考えていくことが大事なので、そのつもりで進めていきます。

いろいろ考えていく中で、事務局も現状や問題点について数値などによる見える化を心掛けてください。例えば、英検の結果などでも、何人受験しどの程度合格しているか、合格率が向上しているのかなど。

では、次の案件「次期学習指導要領について」教育長から説明します。

高木教育長 5月11日に文科省へ出張し、説明を受けてきましたが、「学習指導要領」は1番目に説明された事項でした。国としての考えを示されたわけですが、先に町長が申しあげたとおり「御嵩町ではどうするか」が重要なこととなります。

学習指導要領は10年をめぐりに改定されてきています。現在の要領は平成20年にスタートしたものです。当時とは様々な状況が変わってきていると考えられます。小学校については平成31年に採択され32年度から改定された学習指導要領の使用が開始され42年度まで使用されます。

今回の改訂のポイントは3つあります。「資質能力一層確実に育成し、社会に開かれた教育課程を重視すること」「現行の教育内容を維持したうえで知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成すること」「豊かな心や健やかな体を育成すること」です。

そのなかで、何ができるようになるかを明確化することとなりました。これまでも、「知識や技能」「思考力、判断力、表現力」などは対応してきましたが「学びに向かう力、人間性等」は全く新たに始めることで、大きな変更点となります。

渡邊町長 では、質問等があれば発言してください。

細野教育委員 知識能力については学習状況調査から御嵩町の子供は良い評価がされていると思いますが、同調査のB問題の文章を読み解く力が少し足りて

いないのではないかと・・・そこを伸ばしていくよう取り組んでほしいと思います。

また、近年体験型学習につながる、屋外で虫取りなどしている様子が見られないように感じます。授業の中ではそのような機会を増やしていただいているようなので、今後も充実していただきたい。

最近の理科の授業では実験の機会が減っているようにも思えますが、理振の予算が減っているのでしょうか。

井澤学校教育係長 理振の予算は手当てされており、教材もかなり充実していると考えています。補助も拡大傾向ではありますので、今度さらに充実していきたいと思います。

平井教育委員 新たな要領はよく考えられていると評価していますが、マスコミでは「詰め込み」から「ゆとり」そして「今回の改正」という論調がされており、一般の方はそういった論調に影響されるように思います。ゆとりと言われている世代が親となっている子に対する要領であるので、親に対しても、十分に理解していただけるように取り組んでもらいたいと思います。

田中教育委員 大学受験に英検が入るような状況で英検受験に対する補助を設けていることは良い取り組みと思いますが、意欲のある子に対しては大変有効な反面、意欲のない子については格差が広がってしまうと思います。「英検を受験すること」についての重要性を教える学校の対応が必要だと考えます。

渡邊町長 人口が減ることや AI の発達により仕事がなくなっていくことが言われ始めているなかで、英語教育を重視していくのは世界で働ける人材を育てるには共通語としての英語力が必要だと考えているからです。そういう面からも、田中委員が言われるような学ぶことの重要性を教えることは必要なことであると考えています。

他にご意見がないようであれば、これにて会議を閉会とします。